

按蝸牛俗云出 有四角而二者短其短者非角露眼之甚者也物觸則縮角出入最速

莊子所謂有國于蝸牛左角者曰蠻民國于右角者曰觸氏爭地而戰伏尸數萬者是也蓋蠶螟蟲窠蚊

睫之類共是寓言耳略

緣桑羸くろのりのかたつむり 本綱此螺全似蝸牛黃色而小雨後好緣桑上者取用藥正如桑螺蛸之意主治大腸脫肛及

驚風

〔重修本草綱目啓蒙二十八下〕蝸牛 カタツブリ古名 マイマイツブリ江戶〇

ヘビノテマクラ仙臺 ヘビノタマクラ ツノダシムシ共ニ同上

冬月ハ石間或ハ土中ニ蟄シ寒ヲ避ク春雨ヲ得レバハヒ出テ草樹ニ上ル天晴ル時ハ葉下ニ

隱レ懸リ雨フル時ハ出緣リテ新葉ヲ食フ殊ニ香草ヲ嗜ミ嫩芽ヲ害ス梅雨中卵化シテ一二分

ノ大サナル蝸牛多ク出最嫩苗ヲ害スソノ形篇螺ノ如クニシテ殼薄ク碎ケ易ク罨ナシ行ク時

ハ形蛞蝓ノ如クシテ殼ヲ背上ニ負ヒ頭ニ兩角ヲ出ス故ニ蝸牛ト名ク略

〔夫木和歌抄二十七〕十題百首

牛の子にふまるな庭のかたつぶり角のあればとて身をなたのみぞ

永仁二年爲相卿家會雜歌中

寂蓮法師

家は捨すなにかなにはのかたつぶりのくにありと身をたのむらん

〔嬉遊笑覽容一〕類柑子に其角井寶が茅場町の栖の隣なる閑地にて車をまかけ元結をこく事を

いひて文七と云者元結こく處に成ぬるなり略 文七にふまるな庭のかたつぶり略

〔新撰字鏡虫〕蝸 羊朱反蛞蝓羸加太

〔本草和名十六〕蛞蝓仁譜一名陵蛞蝓音禮一名土蝸一名附蝸一名山蝸景注一名蛞蝓附蝸一名

斑蛞蝓一名土虹已上出 兼名苑 和名奈女久知

蛞蝓